

平成 30 年 2 月 1 日

平成 29 年 5 月から平成 29 年 7 月まで
精神看護学方法論演習を受講した学生さんへのお知らせ

当科目では、以下の授業研究を実施しております。この研究は、学生さんが演習後に記載したワークシートに基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(平成 26 年 12 月 22 日制定 平成 29 年 2 月 28 日一部改正)」により、対象となる学生さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名 紙面による事例提供のない対話中心型看護過程演習の効果と課題
2. 研究期間 平成 30 年 2 月 ～ 平成 30 年 11 月
3. 研究機関 産業医科大学
4. 実施責任者 広域・発達看護学講座 助教 森田 祥子
5. 研究の目的と意義

本研究は森田祥子を研究代表者とする他大学との共同研究です。

患者と看護師の最初の出会いやその際の対話は、その後の関係性や看護に影響する大事な場面です。しかしほとんどの看護学生にとって精神看護学実習が精神障がい者と関わる初めての機会となるため、実習初期は緊張や不安が強くうまくコミュニケーションがとれないことが多いです。また看護学生は、看護過程を展開するために必要な情報を患者との対話から得るのではなく、最初から電子カルテを見てしまう傾向にあります。そのため看護学生は患者と対話しながら援助の人間関係を形成することや、患者の全体像を捉え看護の方向性を考え実践につなげることが難しい状況にあります。文部科学省と厚生労働省は、看護教育における実践能力の育成と向上を主要課題の一つとしています。そのため近年 OSCE(Objective Structured Clinical Examination、客観的臨床能力試験、臨床実習を行う臨床能力を身に付けているかを試す実技試験)などのシミュレーション教育が取り入れられ、精神看護学領域でも模擬患者を用いたり SST (Social Skills Training、社会生活技能訓練)を導入したシミュレーション教育が行われています。しかしこれまでの国内の研究で、事例提供がなく対話中心に看護過程を行うシミュレーション教育はありませんでした。そこで今回の研究はより実践に近い状況とするため、紙面による事例提供を行わず看護学生と患者の出会いの場面を演習場面として設定しました。この演習のねらいは、看護学生が初対面の状況下での対話を体験すること、必要な情報を引き出すために工夫しながらコミュニケーションをとること、また患者との援助の人間関係の形

成を意識することとしました。この演習を行いその効果を分析することで、精神看護学領域の実践能力の育成と向上につながると考えます。

6. 研究の方法

本研究は、当大学看護学科3年生69人に、紙面による事前の事例提供のない対話中心型看護過程演習を行い、その演習の効果と課題を明らかにすることを目的とした後ろ向き記述的研究です。具体的な方法として、統合失調症とうつ病の患者役を教員2人が行い、1グループ7～9人に分かれた学生らと患者役の教員対話を行いました。1回の対話を5～10分程度とし合計4回行いました。その後学生はグループワークを行いながら看護過程を展開し、最終日にグループごとに発表しました。対話から発表まで各回終了時に演習を振り返り、「気づいたこと」「感じたこと」「考えたこと」「疑問に思ったこと」「これからやらなければいけないこと」「これからやってみたいこと」などの自由記述してもらい、最終日の発表会後にテーマ「看護過程演習を終えて」について自由記述してもらいました。学生が提出した自由記述のワークシートを分析対象とします。

7. 個人情報の取り扱い

参加者を特定できる個人情報は、一切公表いたしません。また、この研究によって得られた成果を学会や論文などに発表する場合には、個人を特定できる氏名などの個人情報は一切使用いたしません。個人情報に関しては、同意を得られた学生のワークシートの氏名部分を切り取り分析に使用します。

また本研究において使用した個人情報及びデータは、研究終了後5年間研究実施責任者の研究室の施錠できるところに保管いたします。その後破棄する際は、研究実施責任者の管理の下、匿名化を確認し個人情報が外部に漏れないように対処します。また同意を撤回された場合にも、その時点までに得られたデータを、同様に破棄いたします。

本研究は既存の情報を利用するため、対象者からのインフォームド・コンセントは必ずしも必要ではありませんが、研究参加の拒否は自由です。研究への参加にご同意いただけない学生さんは下記問い合わせ先にご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。

8. 問い合わせ先

産業医科大学 産業保健学部看護学科 広域・発達看護学講座 森田祥子
北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 TEL093-603-1611(内線4759)
福岡県立大学看護学部 基盤看護学系臨床機能看護学領域 増満 誠
福岡県田川市伊田4395 TEL0947-42-1856

9. その他

研究への参加に対する謝礼はありません。本研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。